

執権政治の展開 2

次の文章 A・B を読み、下記の間 に答えよ。

A 1199 年、將軍独裁の体制で政治を運営していた⁽¹⁾源頼朝が急死し、長子の頼家が將軍につくと御家人中心の政治を求める動きが強まった。有力御家人のあいだでは幕府の主導権をめぐる争いが続き、⁽²⁾多くの御家人がほろんでいった。そのなかで、(a)の在庁官人出身の北条氏が勢力をのぼしてきた。1203 年、頼朝の妻(b)の父である(c)は、將軍頼家を幽閉して、弟の実朝を將軍につけた。さらに 1213 年、(c)の子義時は長らく侍所の長官であった有力御家人の(d)をほろぼし、(e)と侍所の長官をかねて幕府の実権をにぎった。こうして確立した北条氏の地位は執権とよばれ、以後、執権は北条氏一族が世襲することになった。

B ⁽³⁾承久の乱後の幕府は、義時のあと執権についての北条泰時の指導のもとに発展の時期をむかえた。1225 年、泰時はあらたに執権の補佐役である(f)を置いて北条氏一族中の有力者を就任させた。ついで、有力御家人や政務にすぐれた武士を選んで(g)とし、執権・(f)とともに幕府最高の政務の処理や裁判にあたらせ、合議制にもとづく政策決定の体制をととのえた。また 1232 年、泰時は武家の最初の体系的法典である(h)を制定して、広く御家人たちに示した。これは頼朝以来の幕府の先例や、道理とよばれた武家社会での慣習・道徳を成文化したもので、守護や地頭の任務と権限、御家人同士や御家人と荘園領主とのあいだの紛争を公平にさばく基準など、武家法独自の規定があきらかにされている。

執権政治の隆盛をもたらした泰時の政策は、孫の執権北条時頼にうけつがれた。時頼は御家人の保護に努力してその支持をかためるとともに、(g)のもとにあらたに(i)を設置し、増加する御家人たちの所領に関する訴訟を専門に担当させ、敏速で公正な裁判の確立につとめた。一方で時頼は、前將軍の(j)を陰謀の疑いで京都におくりかえし、1247 年には、幕府内の最有力御家人であった(k)一族をほろぼした。これを(1)といい、北条氏の地位を不動のものとした時頼は、やがて藤原將軍にかわる⁽⁴⁾皇族將軍をむかえた。こうして執権政治は時頼のもとにさらに強化され、北条氏による独裁の性格が強まっていった。

北条氏の権力は、元の来襲のころを境にさらに拡大し、なかでも家督をつぐ⁽⁵⁾得宗の勢力が強大となった。それにつれて律宗の家臣である御内人と、本来の御家人とのあいだの対立も激しくなり、(m)の子貞時の代になると、1285 年に有力御家人の(n)らが御内人の代表である内管領の(o)にほろぼされるという事件がおきた。成長、した貞時はやがて(o)をほろぼし、幕府の実権をにぎった。得宗の絶対的な勢威のもとで、内管領をはじめとする御内人が幕府の政治を主導し、元の来襲にそなえて九州に設置された鎮西探題にも北条氏の一族が就任した。これを律宗専制政治とよび、北条氏一門は全国の守護の半ば以上を独占し、軍事的・経済的に重要な都市や港湾も多くは北条氏の支配下にはいった。

問 1 本文中の空欄(a)～(o)に当てはまる適切な語句を下記の語群からそれぞれ1つずつ選び、その番号をマークせよ。

- | | | | | |
|-----|------|------|------|--------|
| (a) | 駿河 | 甲斐 | 相模 | 伊豆 |
| (b) | 祥子 | 政子 | 祝子 | 涼子 |
| (c) | 北条時房 | 北条宗政 | 北条時政 | 北条重時 |
| (d) | 和田義盛 | 梶原景時 | 三浦素材 | 比企能員 |
| (e) | 評定衆 | 政所 | 引付衆 | 連署 |
| (f) | 評定衆 | 政所 | 引付衆 | 連署 |
| (g) | 評定衆 | 政所 | 引付衆 | 連署 |
| (h) | 建武式目 | 式目追加 | 貞永式目 | 建武以来追加 |

- (i) 評定衆 政所 引付衆 連署
- (j) 藤原頼嗣 荏原義経 藤原兼実 藤原頼経
- (k) 和田義盛 梶原景時 三浦泰村 比企能員
- (l) 霜月騒動 宝治合戦 和田合戦 永享の乱
- (m) 北条長時 北条時輔 北条政村 北条時宗
- (n) 平頼綱 北条実時 安達泰盛 竹崎季長
- (o) 平頼綱 北条実時 安達泰盛 竹崎季長

問 2 下線部(1)について、源頼朝が守護・地頭を設置したのはいつか。下記の中から選び、その番号をマークせよ。

1184 年 1185 年 1189 年 1192 年

問 3 下線部(2)について、当時は貴族出身の頼朝側近と有力御家人からなる 13 名の合議制によって政治が行われていた。この 13 名に当てはまらない人物はだれか。下記の中から選び、その番号をマークせよ。

大江広元 三善康信 三浦義澄 北条師時

問 4 下線部(3)について、この乱により 3 人の上皇が配流された。この 3 人に当てはまらない上皇はだれか。下記の中から選び、その番号をマークせよ。

後鳥羽 順徳 仲恭 土御門

問 5 下線部(4)について、名目だけの将軍にすぎない皇族将軍は以後 4 代続いたが、その最初の将軍はだれか。下記の中から選び、その番号をマークせよ。

懷良親王 宗尊親王 護良親王 惟康親王

問 6 下線部(5)について、得宗の説明として誤っているものはどれか。下記の中から選び、その番号をマークせよ。

得宗とは、北条氏の嫡流の当主のことである。

最後の律宗は、北条高時である。

実際に得宗を称したのは、北条時頼の頃からである。

得宗の名は、北条義時が徳宗と号したことに由来するといわれる。 .

解答

問 1.(a) - (b) - (c) - (d) - (e) - (f) - (g) - (h) - (i) -

(j) - (k) - (l) - (m) - (n) - (o) -

問 2. 問 3. 問 4. 問 5. 問 6.